



おひさま

八代市教育サポートセンター
子ども支援相談室便り
令和4年 12月号
文責 江藤紀子

子供が登校をしづったら

もし、子供が登校をしづったらどうすればいいの？
熊本県の不登校数が4700人を超え、3割増えたそうです。
今や不登校はいつ誰に起きてもおかしくないこと・・・。
その時にどう対応するのか、考えていきたいと思います。

☆そもそも不登校は悪いことなのか？

誰の心にも不登校の芽は、あるのかもしれない。

人間関係や仕事、学業などで気持ちが落ち込むと、登校や出勤が辛くなる場合があります。

人は、不安を感じると、なかなか前向きな気持ちになれず、無理をすると頭痛や腹痛を起こしてしまいます。

そんな気持ちを「悪い」と言われてしまえば、もっと不安になるし、誰にも相談することができなくなってしまいます。

不登校を「悪い」と捉えず、子供からの「サイン」だと受け取るようにしましょう。



☆そのサインを見逃さないで！！

登校をしづったり、腹痛を訴えたりするのは、子供が送っている大切なサインです。信頼できる人だからこそ、サインを出しているのです。そのサインを受け取って、しっかり読み取る必要があります。

サインをスルーして、登校させることばかりに囚われていると、子供は、サインを出しても受け取ってもらえないことが分かり、自分の殻に閉じこもってしまうこともあります。

※裏面に不登校初期対応を載せています。



不登校初期対応の三つのポイント

①学校に行けなくなっている子供の状態を受け入れてあげる

親も辛いですが、子供も辛いのです。登校にこだわって、叱ったり諭したりしても、学校に行くことができない子供の辛さは、変わらないし、言えば言うほど「分かってもらえない」と心を閉ざしてしまいます。

②大人の価値観（正論）を押し付けない

「登校しないと勉強に遅れる」など、子供は分かっているからこそ、「行かなければならない」と「行けない」との狭間で苦しんでいるのです。分かっているのに、正論を押しつけられると、自分を責め、食事を摂れなくなったり、眠れなくなったりすることがあります。

③子供の話を聴く

指示やアドバイスを挟まずに、子供の話を聴いてください。何も話そうとしない時は、話しても分かってもらえないと諦めているのかもしれない。そんなときは、次のようにしてみてください。

- そばに寄り添い、「あなたの味方だよ。必ず助けるから」と言いながら話してくれるのを待ちます。
- 話を聴いたら、「そんなにきつかったんだね」「苦しかったね」とつらさを共感し、「話してくれてありがとう」と言います。

このような対応で、少しずつ不安がほぐれ、自分は大丈夫だと思えるようになり、前向きな気持ちになっていきます。

親にとっても苦しい時間ですが、少しずつ元気をためて動き出す子供のタイミングを待ってあげましょう。

悩み相談(不登校など)

「やつしろ子ども支援相談室」は、大人も子供も相談ができます。
不安な気持ちになったときは一人で悩まず、相談してください。

●相談方法

- 電話 0965-33-6145 (相談室直通)
- メール kodomo-sien@yatsushiro.jp
- 面談 やつしろ子ども支援相談室 (八代市役所4階)

●相談時間 月～金曜日 午前9時～午後2時

※相談無料 匿名でも相談できます

右のQRコードを読み取って相談してください。

※すぐにメールの返信ができない場合があります。

